

平成 30 年 1 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 30 年 1 月 4 日（木） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社
KNB、チューリップテレビ、NICE TV

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長
企画政策課長

1. 新年あいさつ

- ・昨年中、魚津では色々なイベントが行われた。色々とお報道いただき感謝している。平成 30 年は、また、新たな年ということで、これからの発展にむけて様々な取組、新しいチャレンジを行っていききたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

2. 市長からの発表事項

- (1) 「新たなひとの流れプロジェクトチーム（人口動態等分析チーム）」発表会を開催
 - ・魚津市の人口問題を、行政だけではなく、民間企業、地域住民の方等、全員で共通理解をして、どうすれば少しでも人口減少スピードを緩くすることが出来るのかを、オール魚津で取り組んでいきたいと思っている。そのスタートとして 1 月 19 日（金）に、人口動態に関する発表会を若手職員主体で行う。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

- (2) ふるさと祭り東京 2018 へのたてもんの出演について

- ・ 1 月 12 日（金）～21 日（日）に東京ドームで開催される「ふるさと祭り東京」において、15 日（月）～17 日（水）の 3 日間、1 日 2 回たてもんの曳き回しを行う。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

- (3) つくる UOZU プロジェクト（新分野産業育成事業）

「UOZU ゲームハッカソン」開催結果について

- ・開催日時 12 月 23 日（土）～24 日（日）（1泊2日）
- ・会場 片貝公民館（旧片貝小学校）
- ・参加状況 36 名

今後も、新産業の育成を通じた若者の地方への定着という観点で、取組を続けて行きたいと考えている。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(4)魚津ふるさと応援キャンペーン フォトコンテスト

「見つけて魚津 UO!PHOTO!」 受賞作品の決定について

- ・海、水、自然に、フォーカスした作品が多かったように思える。魚津の特色は那样的ところにあると再認識した。その他には、たてもんやミラージュランドの観覧車等を写した作品が多かった。応募いただいた全ての方に感謝したいと思う。折角の素晴らしい写真なので、一過性の取組とせず、これらを活かす取組を考えていきたい。

(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・平成 30 年魚津市武道合同稽古始め
- ・平成 30 年魚津市成人式
- ・市内小中学校 3 学期始業式
- ・第 12 回桃山雪まつり
- ・学校給食試食会 “全国学校給食週間：小学校のリクエストメニューを味わおう！”

〈企画総務部長〉

- ・平成 30 年新年賀詞交歓会
- ・平成 30 年消防出初式（新川文化ホール、魚津市役所周辺ほか）
- ・海上出初式及び冬季海難救助訓練（魚津港南区）
- ・文化財防火訓練（宮津八幡宮）
- ・「新たなひとの流れプロジェクトチーム（人口動態等分析チーム）」発表会

〈民生部長〉

- ・第 14 回もちつき交流会
- ・図書館で住民票の写し等の交付開始（図書館交付専用窓口 1/26～）
（図書館での住民票の写しの交付は県内で 4 番目。市では年間 3 万通程度住民票の写しを交付するが、5%程度を図書館で発行することを見込んでいる。また、他市町村の状況から、図書館での交付の 7 割が土日になるのではと予想している。）

〈産業建設部長〉

- ・おさかなランド初競り
- ・平成 30 年魚津市航海安全・大漁祈願祭（魚津漁業協同組合 本所）

3. 質疑応答の内容

「新川地区の新しい関係構築、市長の任期後半に向けての思いについて」

《記者からの質問》

今年、県東部の滑川市や黒部市では首長選挙が行われるが、新川地区という枠組のなかで、代表者が変わることも考えられる中、新しいリーダーとの関係構築を含めて、どのような思いをもっているのか。また、市長自身も今年5月に任期の折返し地点を迎えることになるが、残り2年の市政運営をどのように考えているかを年頭にあって改めて教えていただきたい。

《回答》（市長）

まず、他市との関係構築については、それぞれの市で市民がリーダーを選ばれるので、どなたがリーダーになってもしっかりと話し合っ、新川の連携をしっかりと図れるように関係を構築していきたいと思っている。ひとつの自治体だけでは、なかなか解決できないことが多くなってきている時代であるから、連携を強めていきたいということは、就任時から言ってきたことである。その点においては、全く変わりはない。

ふたつ目の後半に向けてということについてだが、気持ち的には、まだ4分の1くらいの気持ちである。まずは、新年度（平成30年度）の予算編成において、しっかりと人口減対策につながる事業を構築していきたいと思っている。そのうえで、就任時から市民の皆さんにお約束している「産婦人科クリニック」の事業、これをまずしっかりとやり遂げることが重要だと考えている。

1年1年、しっかりと職務をこなしていきたいと考えている。

「ふるさと祭り東京」

《記者からの質問》

たてもんの参加は何回目か。

《回答》（市長）

東京ドームは2回目である。資料の写真は1回目の2015年参加時のものである。

「魚津市成人式」

《記者からの質問》

魚津市の成人式は、荒れたりはないのか。

《回答》（市長）

昨年は、進行を妨害するようなものなく概ね順調だった。

《記者からの質問》

成人式での優良青年表彰者等は全国的に有名な方か。

《回答》（教育長）

実行委員会で選んでいる。特別、全国的に有名な方ということではない。

「新たなひとの流れプロジェクトチーム(人口動態等分析チーム)発表会」について 《記者からの質問》

若手職員の方はいつ頃からプロジェクトチームを立ち上げたか

《回答》(市長)

平成 29 年の夏頃である。

《回答》(企画総務部長)

「新たなひとの流れプロジェクトチーム」は、魚津の強み弱みを研究して、昨年発表会を行った。そのチームのなかで、今回、特に「人口動態」を分析するチームを若手 10 名に更にお願ひした。夏前くらいから、庁議の場でデータを発表していた。今回、国勢調査の結果も踏まえて、市民のみなさんに公表するものである。

「高岡市の財政問題について」

《記者からの質問》

高岡市の財政危機の発表について、唐突感が否めなかった。魚津市では、高岡市のようなことはあるのか。また、市長は高岡市の状況を見て、どのように思っているのか。

《回答》(市長)

高岡市の状況は、報道で急に出ているのではと思う部分はある。おそらく、それなりに財政再建の必要性を訴えていたのではないかと思っている。それが、あまり表に見えなかったことが原因にあるのではないかと思っている。自治体でも企業でも同じではあるが、大切なのは、出来るだけ問題の在り処や状況の「見える化」をしていくことであると考えている。それで、魚津市では、1 年前に「財政を考える市民会議」を設けた。これについては、この会議の中だけで終わらせるのではなく、外に情報を伝える仕掛けとして設けたものである。12 月の議会でも、議員から財政状況をわかりやすく伝えてほしいという意見がいくつもあった。今年の行政経営方針のなかでも、財政の弾力化にむけた行政改革の取組といったことを入れてある。それを市民の方にわかりやすく示していくということを新年度やっていきたいと考えている。高岡市の場合も色々伝えていたとは思いますが、市民の方に伝わらないと、結局は急な話ということになってしまう。そこを、気を付けたいと思う。「見える化」をどんどん進め、市民の方に伝えていきたいと思っている。

《記者からの質問》

数値的な指標で高岡市が悪かったことを我々は見過ごしていたのかもしれないが、自分には解せないところがある。キャンペーンのようにしようとしているのか。

《回答》(副市長)

急にあの状況が分かったわけではないと思う。それがきっとかなり前から分かっておられたと思う。それが新聞に出たタイミングがどうだったかは分からない。

《記者からの質問》

40 億円がどうしたとかという話が出ているが、どのように捉えるかで全然違ってくるのではないかと思うが。

《回答》（企画総務部長）

魚津は市町村合併をしていないので、早くから行革に取り組む必要があったために、公共施設再編方針も早めに立て、財政課の方でも予算を立てるときに、向こう 10 年間の財政収支を立て、予算規模は収入を見ながら決めていっている。想定以上に税収が落ち込むとか、国から期待していた交付金が思ったように入らないなどということはある。高岡市についてのコメントは控える。

「新たなひとの流れプロジェクトチーム(人口動態等分析チーム)発表会について

《記者からの質問》

今回は、市民課・総務課での状況把握の研究発表になると思うが、魚津市の移住・定住の事業は企画政策課で行われている。この次の流れとして、企画政策課にバトンを渡していく形になるのか。ちょうど今、平成 30 年度の予算編成が行われているが、そこに組み込まれていくのか、それとももう少しあとの 6 月補正あたりになるのか。そのあたりの見通しを教えてください。

《回答》（市長）

新年度の行政経営方針の中でも、柱のひとつに「定住・移住」の取組を横断的な体制を作って取り組んでいくことを掲げている。なぜそうしなければいけないかの共通理解を、市職員、市民に共通理解を持ってもらうことが必要である。そのようにしないと、急に人を外から呼んでくるようなことをしなくてもという話になってしまう。まず、現状をしっかりと知ってもらって、このまま推移したらどうなるかを知ってもらう必要がある。そのうえで、どういう作戦を立てるかの段階で横断的な体制ということになってくるので、企画政策課だけでなく、もっと幅広い分野の方々が関わってこの取組を行っていくということになる。従って、今回のプロジェクトというのは市民全体で共通理解を図るための一歩と考えていただければいい。

《回答》（企画総務部長）

魚津市では、これまで人口動態の状況を、ホームページや市広報で、前月・前年比較の人口の増減の情報のみ発信してきたが、今後の展開として、人口減少について、死亡者が多いのか、転出者が多いのかなど、細かい内容についても「見える化」して市民に分かりやすくオープンにしていきたいと考えている。

《記者からの質問》

そういう意味では、新年度の予算に反映していくということか。

《回答》（市長）

反映していく。

《記者からの質問》

新しい部署を作るという話はないか。

《回答》（市長）

どこまでの構えにするかは、いま検討している最中である。

「学校統合する、大町・村木・本江・上野方小学校の3学期の行事」について

《記者からの質問》

村木小の機関車磨きは象徴的な行事で取材に行く予定であるが、4月に合併する小学校の、最後の3学期の色々な行事を取材に行きたいと考えている。お勧めの行事等あれば積極的に報道案内していただきたい。

《回答》（教育長）

できるだけ早めにお知らせしていきたいと思う。